明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　　１１月２日
第４５号

作る必要のない日常～面接に関する学習～

中学卒業後の進路を決める
という取組

この取組を通して……

自分という人間を磨き、自分の「生きる力」をつけていく

自分の夢や
自分の希望
する生活を
実現させる

いよいよ面接に関する進路学習が本格的に始まります。「えっ？？おれは面接のある受験はしないよ？なんで？関係ないじゃん？？？」と思った人、それは早くも受験の悪魔に洗脳されかかっています。コワイコワイ……

だって、面接がないということは、「学力試験」を受けるわけでしょう？
ということは受験しにその高校に行くわけですよね？
高校の試験官に見られている中で試験を受けるんですよね？
試験を受けるためには、願書も提出するんでしょ？
合格すれば手続きをしに高校に行くんでしょ？
就職する人は面接どころか、あなたという人間そのものを見られるわけですよ。

ここまで言われて、
「ああそうか、
面接におけるマナーや身だしなみ、態度というものは、
全てに関係するんだな、全員がこの学習をする必要があるのは
当然だな。」
と分かった人は、ギリ、セーフです。

社会に通用する基礎・基本は、中学時代に身に付けるべき

面接練習でやること

社会に通用する
- 基本的な動作
- 服装等の身だしなみ
- 態度
- 自分をアピールする力

入試を受ける マナーと同じ

- ◆バイトの面接
- ◆大学入試時の面接試験
- ◆入社試験での面接
- ◆昇進試験での面接
- ◆就職後、取引先との交渉

などなど

基本的マナー、面接を行う際の心構えなど、基本的な部分はいつになっても変わらない

上の図を読めば一目瞭然。面接練習でやることは、なにも**特別なことではない**のです。
高校生、大学生になれば、さらに大人のマナーが求められます。しかし、**そのベースとなるものがないと、それは身に付きません。**義務教育を終えるにあたり、全員が社会的常識をわきまえたマナーを身に付けることが必要になります。

面接で失敗する理

緊張するから――――――――――――――――――――

実は、緊張するという現象は人間の体でのメカニズムにおいて必ず起こるもの。
「緊張しているな」と自覚できれば、「落ち着いて答えよう」「質問されたら、少し間をおいてから答えよう」など、対策を講じることができます。（また、そのように練習します）
タチが悪いのは、緊張していることが自覚できない場合です。友達と、お互いにいつもの様子を話し合ったり、模擬面接などしてみてください。緊張しないと言う人は、「おれ、緊張しないんだけど、そういうふうに見える？」と他人に聞いてみるといいです。

ふだんと違うことをするから――――――――――――――――――――

服装、言葉づかいなど、ふだんと違うことをしよう、作ろう、と思うと、余計な緊張にもつながるし、慣れていないことをするので、しどろもどろになります。
敬語、尊敬語、謙譲語などの使い分け以前の問題として、**日常の話し言葉がそのまま出てしまう文章にならず、単語でしゃべってしまう**などが挙げられます。「中学校生活で印象に残っていることは？」と問われて、「やっぱ、合唱コンクールです。ちょーヤバかったっす！」とか、逆に「合唱コンクール！（以上、終わりっ！みたいな……）」前例はまあクリアできるとして、後の単語でしか返答できない例は、たぶん起こりえます。ほかにも服装やノック、椅子に座る時、おじぎ等の、いわゆるマナーも同じです。ふだんできないことをやろうとするから失敗するのです。

自分を作ろうとするから――――――――――――――――――――

「少しでも自分を良く見せよう、良く評価してもらおう」とすると失敗します。特に個人面接では、「自分を１分間でアピールしてください（１分は長いですよ）」などと言われる場合もあります。ただし、その内容は、推薦書や自己ＰＲカードの文書で相手に届いている（提出している）はずです。
それを、ことさらに膨らませたり、そこに書いてないことまで言おうとするから、支離滅裂な答弁になるのです。

自分を十分に評価してもらう ～失敗する理由に対応する～

	緊張する	ふだんと違うことをする	自分を作ろうとする
なぜそうなるか？	・練習不足 （自分に自信がない） ・自己理解が不足	・ふだんの行動が未熟 （服装・頭髪、言葉づかいなど） ・その時だけなんとかなればいいという考え	・面接、自己 PR カード、調査書を別々のものと考えている ・事実を脚色して伝えようとする
どういう準備をしたらよいか？	▼十分な練習、準備を行う （筆記試験も同じ） ▼自己ＰＲカードを利用し自分を冷静に見つめる （私立単願の人も、自己をみつめる手段として活用する）	▼ふだんから習慣づける ●言葉づかい ●落ち着いた行動 ●入試に対応できる 服装、頭髪など	▼書いたことと言うことを一致させる ▼自信を持って語れるふだんの生活を心がける ▼これまでの自分の生きざまを振り返り、整理する。

「何を答えたか」ではなく「どう答えたか」が大切

「なぜ、本校を希望したのですか？」
と言われて、
「別に受けたくなかったんですけど、他じゃあ受かんないって言われたんで…」
と答える人はいないと思います。それぐらいの判断はできるでしょう。
とすれば、それでいいのです。なにも無理して相手が望むような（望むだろうと勝手に予想した）模範解答をする必要はありません。

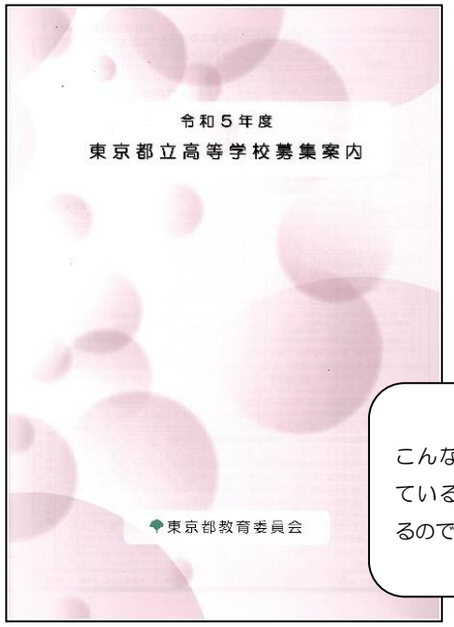
面接官は「何部に入ってましたか？」「校長先生のお名前は？」「どこの学校を併願しましたか？」など、すでに書類で提出してあり、分かっていることも聞いてきます。分かっていることをわざわざ質問するのです。
大切なことは、「何を答えたか」ではなく、「どう答えたか」ということです。

それでも「準備」は必要

面接官となる人は、
ほとんどその高校の先生です。
これまで何千、何万という
中学生を相手に、毎年面接試験を実施してきたのです。
このわずか数分の面接で、その人の持つ本当の良さを探り出すことは難しいかもしれません。三年間かかってその良さを分かってもらえる人もいるのですから。それでも彼らは、面接のときのあたりさわりのない受け答えの中から、**「この生徒はどういう人物か」を推察するぐらいのことはできる**のです。

面接の中で「当たり前の質問」に対して「スムーズに返答できる」というのは、面接官から見れば**「この人はこの面接のために、ちゃんと準備や努力をして臨んでくれたのだ、そういう努力が出来る人なのだ。」**という印象を与えることができます。その誠実さを、面接試験では見るのです。

都立高校受検予定者は三者面談期間に必ずこの冊子を読むこと



画像は昨年度のものです

■令和６年度　東京都立高等学校募集案内
都立高校の今年の要項について、すべて掲載されています。ただし詳しすぎるので、分かりづらい点などは担任の先生に質問しましょう。**p.44～115には、すべての都立高校１校１校に関する入試情報が載っている**ので、ここで志望校の情報を確認しましょう。p.124 からの Q&A も必見です。

こんなことを示していることが分かるのです。

例えば p.45「杉並高校」の例ですと……

推薦に基づく入試は

左端の欄から
募集定員に対する推薦枠の割合が２０％
調査書点は観点別ではなく評定を採用する
調査書点は 500 点満点、個人面接が 250 点、
集団討論は実施しない、
小論文・作文は、作文を課題として採用し
250 点満点、その他の課題はない

都立校個別の情報がこのように載っています。
必ずお家の方にも読んでいただきましょう。

都立を受ける人は、合格発表までこの冊子を捨てないように

今後の予定

６日（月）	生徒会朝会　期末考査２週間前　三者面談開始 ①　面接ガイド・面接練習（各クラス）　⑥カット
７日（火）	三者面談　⑥カット
８日（水）	検定学習会
９日（木）	三者面談　⑥カット
１０日（金）	三者面談　⑤面接ガイド・面接練習（各クラス）　⑥カット
１１日（土）	土曜授業公開　オープンキャンパス ①　②高校生の先輩の話を聞く会　③セーフティ教室

※高校生への質問を受け付けます。何か聞きたいことがある人は早めに Teams 掲載の Forms から回答してください。